

JADPA



NPO法人日本アトピー協会



アトピーへの  
正しい視点  
みんなで考える  
アトピー  
ジャーナル

発行：NPO法人 日本アトピー協会 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階 電話:06-6204-0002 FAX:06-6204-0052  
Eメール: jadpa@wing.ocn.ne.jp ホームページ: http://www.nihonatomy.join-us.jp/

CONTENTS

- ◆ 早くも本年最後の「あといびなう」となりました 医療現場なう ..... P1~P3
- ◆ 法人賛助企業様ご紹介 第22回 ..... P3
- ◆ 2014年「皮膚の日」催事 ..... P4・P5
- ◆ アレルギー疾患治療実態調査報告 ..... P6
- ◆ ハーイ！アトピーづき合い40年の友実です ..... P6  
フリーアナウンサー 関根友実さん（第16回）
- ◆ ドクターインタビュー ..... P7  
ひざわ皮膚科クリニック 檜澤 孝之先生
- ◆ ATOPICS 第27回日本製薬工業協会患者団体セミナー ..... P8  
参加報告・東北支援関連情報・ブックレビューほか

## 早くも本年最後の「あといびなう」となりました

11月12日の「いい皮膚の日」に合わせて、全国で11月の土・日曜日を中心に皮膚科の先生方による市民講座が開かれます。本誌4～5ページに全国で開催される様々な講座をご紹介します。今回の「あといびなう」は、お忙しい中、市民講座などにもご尽力頂いている先生方の仕事場の環境や医療制度の現状について調べてみました。

### 医療現場なう

#### ● やっぱりドクターは憧れの存在？ ●

絶対不可能なオベを見事にこなすスーパードクターは、「いたしません！」のドクターX にチームバチスタ、医龍や古くはブラックジャックまで。確かに、大学病院で世界に数例しかないような難病に立ち向かって下さる先生もいらっしゃいますが、ドラマや漫画は大病を患っても何とかしてくれそうな錯覚さえ覚えてしまいます。開業されている医院の待合にも必ずと云ってよい程、医療系マンガコミックが置いてありますよね。やはりスーパードクターの存在は、私たちは勿論、もしかして、ドクターも憧れの存在なのではないでしょうか？先生方、如何でしょう？しかし、大病院でさえドラマの様な超複雑な、それも多臓器同時オベなどは滅多に無いと思いますから、劇的な爽快感はやはりドラマの世界だからでしょうね。現実的には、やはり先生方の普遍的な診察や治療が日々淡々と行われているからこそ、私たちが安心して毎日の生活が送れているのだと思います。ところが最近、特に地方の病科の閉鎖や病院自体の廃業が相次いでいるようです。一方、町を歩けば医院やクリニックの看板は至る所で見かけますが、一体どうなっているのでしょうか。

#### ● 「医療崩壊」が社会問題に！ ●

日本では、1980年代以降に医療費抑制政策や医師数抑制政策が実施され、医師の不足などにより勤務医が過酷な労働を強いられるようになったと云われています。さらに、2000年以降には医療事故が警察の捜査の対象とされ、善意の医療従事者が犯罪の被疑者として扱われることもあり、マスメディアの報道も加わって医療不信が増大。医療安全への社会的

要求が過度な高まりを見せるにつれ、医師の精神面や医療機関の経営面などに負の影響が及ぼされ、「医療崩壊」となる言葉まで生まれました。

#### ● 日本の医療レベルや健康達成度は世界で1位 ●

しかし、WHO（世界保健機構）によると日本の医療レベルは長年、世界1位の座を占めており、2000年のワールド・ヘルスレポートでは健康長寿が1位、平等性が3位で、「健康達成度総合評価」は世界1位。さらに2009年のOECD（経済協力開発機構・本部フランス）のヘルスデータでも総合1位を維持。日本には「国民皆医療保険制度」があるため、医療を受ける環境の平等性は高いとも云えますが、医療崩壊に負けない医療業界と国民の底力も感じます。

#### ● 医療費が年々増加、医師数が不足する日本 ●

では、実際に国全体でかかっている医療費の動向はどうなのでしょう。また、医師数や病科などの不足はあるのでしょうか。様々なデータを調べてみました。

#### 医療費

日本の医療費は、年々増加傾向に！

テレビニュースや新聞でも良く耳にしますし、また漠然と医療費は増えている感じはしますね。最新（2013年度）の調査では、約39.3兆円もの医療費がかかり、やはり年々、医療費は増加傾向に。前年度に比べると約0.8兆円も増加しています。また、1人当たりの医療費も増加傾向にあります。高齢化社会では、ある程度致し方ないかもしれませんが、健康保険組合の財政難も問題になっており医療費の増加は深刻です。

### 患者さんからのご相談はいつでもお受けします。

症状がいつこうに改善されず長びく治療にイライラが募り先行きを悲観…ちょっと待った！ 全国約450万人の方があなたと同じ悩みをかかえています。ここはみんなで「連帯」し、ささえあいましょう。日本アトピー協会をそのコア=核としてご利用ください。

ご相談は

電話：06-6204-0002 FAX：06-6204-0052  
メール：jadpa@wing.ocn.ne.jp

お手紙は表紙タイトルの住所まで、なおご相談は出来るだけ文面にしてお願いします。電話の場合はあらかじめ要点をメモにして手みじかにお願いします。（ご相談は無料です。）

◆協会は法人企業各社のご賛助で運営しております。 ◆患者さんやそのご家族からのご相談は全て無料で行っております。



## 日本の医療費総額の動向

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
35.3兆円	36.6兆円	37.8兆円	38.4兆円	39.3兆円

(厚生労働省平成25年度医療費の動向より)

## 1人当たりの医療費の推移

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
27.5万円	28.6万円	29.6万円	30.1万円	30.8万円

(厚生労働省平成25年度医療費の動向より)

## 医師数

### 医師は全体的に不足気味!

現役の医師は、全国で約16万7000人。一方、必要な(求人される)医師は約2万4000人。その理由としては、「現員医師の負担軽減(患者数が多い)」が最も高く、次いで「救急医療への対応」になっています。また、アトピー診療に関わる皮膚科やアレルギー科、小児科でも、全体と近い割合の求人がなされています。

### 必要医師数(全体版)

現員医師数	必要医師数	倍率
167,063.9人	24,033.4人	1.14

(厚生労働省 平成22年度必要医師数実態調査詳細結果より)

### 診療科別必要医師数

診療科	現員医師数	必要医師数	倍率
皮膚科	3,347.1人	331.5人	1.10
アレルギー科	258.8人	24.3人	1.09
小児科	8,537.6人	1,331.1人	1.16

(厚生労働省 必要医師数実態調査詳細結果より)

## 医療機関数

### 皮膚科・小児科は減少傾向、アレルギー科のみ増加

一般の病院で2012年と2013年を比べると、皮膚科と小児科の減少が起っており、アレルギー科のみ増加しています。アレルギー科は全体施設数の6%にしか過ぎませんが、アレルギー診療に関するニーズが高く、そこに注目した結果と云えるのかもしれませんが、なお、3科を含む病科全ての総数は19軒(0.3%)減少しています。

### 病院の診療科目別にみた一般病院の施設数(重複計上)(軒)

診療科	2012年	2013年	増減数(対前年)	増減率(対前年)
皮膚科	3,020	3,008	△12	△0.4(%)
アレルギー科	433	449	16	3.7(%)
小児科	2,702	2,680	△22	△0.8(%)

(厚生労働省 医療施設調査より)

### 3診療科目の都道府県別人口比率から見た医師数(抜粋)

#### 皮膚科

##### 1人当たり皮膚科が多い比率上位3都道府県

都道府県	人口	皮膚科医師数
1. 石川県	1,159,000人	67.1人
2. 高知県	745,000人	31.1人
3. 東京都	13,300,000人	538.2人

##### 1人当たり皮膚科が少ない比率上位3都道府県

都道府県	人口	皮膚科医師数
1. 千葉県	6,192,000人	99.4人
2. 埼玉県	7,222,000人	117.7人
3. 鹿児島県	1,680,000人	28.0人

## 小児科

### 1人当たり小児科が多い比率上位3都道府県

都道府県	小児人口	小児科医師数
1. 鳥取県	76,000人	70.6人
2. 東京都	1,503,000人	1163.8人
3. 高知県	88,000人	65.5人

### 1人当たり小児科が少ない比率上位3都道府県

都道府県	小児人口	小児科医師数
1. 神奈川県	1170,000人	341.4人
2. 埼玉県	934,000人	326.9人
3. 宮崎県	155,000人	55.4人

(各人口はH25年 総務省統計局人口推計より。小児人口は同調査0~14才)  
(医師数:厚生労働省 必要医師数実態調査詳細結果より)

### ● 医師の労働環境は意外と過酷!? ●

では、現実的に医師の労働環境はどうなっているのでしょうか。まずは大学病院や公立病院などをはじめとする医療機関に勤める「勤務医」の先生の場合、大学病院などの、いわゆる「一流」と呼ばれる病院であっても、給料が良いとは決して云えないのが現実のようです。極端な例かもしれませんが、某大学病院の非常勤医のポストで月給数万円というケースもあるとか。常勤医であっても、月曜から金曜まで早朝から夜遅くまで働いても収入が足りず、土日はアルバイトまで…。結果的に一般的なサラリーマンの収入を超えたとしても、その労働環境は過酷ですね。また、自らクリニックなどを経営する医師「開業医」の先生の場合、一般的に収入が高いイメージがありますが、経営状況はピンキリだとか。クリニックの開業や維持には、内装や医療機器、テナント料や人件費など膨大な費用がかかり、負債を抱えることも少なくないようです。また開業医になるということは、例えば昼夜問わず勤務医として働いてきた医師がいきなり経営者=社長になるということでもあり、仁術は修得済ですが算術の手腕が問われ、その労力は計り知れません。一般診療所(有床・無床)は全国に約10万軒あるとされています。なんとコンビニの約2倍以上の時代に突入しており、特に都市部では患者の奪い合いにもなっているという声も聞かれます。

### ● アトピー診療に関わる先生方は? ●

では、アトピーを診療して下さる先生方ではどうでしょう。初診で血液検査などがあると、3割負担としてもちょっと高額になりますが、再診時、内服薬・外用薬の処方であっても「あれっ?」と思う金額ですね。ステロイド外用薬などの薬価は、一般的に安価なお薬ですし、16歳以上のアトピー患者さんを診察してもレセプト(診療報酬明細)請求出来る「皮膚科特定疾患指導管理料」は、月に1回しか算定されません(その他様々な条件もあります)。また、土曜日の午前診が延びて夕方に終わることもしばしば。関連学会にも行けず、場合によっては看護師さんへの残業代も必要になるのかもしれませんが。最近では少し聞かなくなりましたが「診察が5分で終わった」と患者さんの不満の声もありました。ドクターは毎日100人近くの患者さんを診察しておられるので、良く云えば「特に悪くなる症状は無い」という診断とも云えますね。ご存じのとおりアトピーは劇的に良くなる疾病ではありませんから、ドクターと一緒に長期的な治療計画を立てる事が大切です。診察をサボって怒られる事や怒鳴られる事もあるかもしれませんが、上司と違ってあなたの事を思って怒ってもらえる人がいる事はとても有難い存在だと思いませんか? また今は少ないと思いますが「なんでこんなになる迄放っておいた!」と怒鳴る先生も、治療に自信がある証なのかもしれません。「前向いて。後ろ向いて。ハイお薬!」では、さすがに寂しいですが、少しでも症状がよくなるための先生方の熱意と努力に、患者さん自らが「治そう!」という気持ちで答える事が大切に感じます。

### ● 専門医でなくても「標ぼう科目」を載せられる ●

では、次に「かかりつけ医」を上手く探すヒントを1つご紹介します。皆さんは「標ぼう科目」というものをご存知でしょうか。クリニックなどの看板に書いてある診療科目のことです。実は、専門医でなくても診療科目を「標ぼう」することができます。例えば、「内科、消化器科、小児科」や「整形



外科、リウマチ科、リハビリテーション科」などのように書き連ねてありますね。大体の場合、専門とする科目を最初に載せるのが通例ですが、皆さんがアドバイザーでお世話になっている皮膚科やアレルギー科、小児科の先生方も、幾つかの科目を標ぼうされているかもしれません。勿論、医大生の頃や研修医の時に様々な医療分野をご修得されていますから専門分野で無くとも総合的な診察や治療が出来る医師ですが、あまりにかけ離れた病科が標ぼうされていると「先生のご専門は？」と考えてしまいますね。

### ●「医学博士」や「専門医」の肩書きは重要？●

では、よく見かける「医学博士」や「専門医」という肩書きについてはどうでしょうか。「医学博士」の肩書は、医師の間では「足裏の米粒」と云われているようです。つまりは「取らないと気になるが、取っても食えない」ということ。「医学博士」は、専門的に学問を修得した人に対し大学から得られる称号で、殆どは医師が修得されていますが、薬学部や理学部を卒業された方でも一部「医学博士」を修得されています。また、「専門医」の肩書きは、3～5年程度の専門研修を受けて、臨床医学の各学会による資格審査と専門医試験に合格した医師に対して認定されるものです。高度な知識と技量と経験を持つ医師であることの証とされています。「専門医」という肩書きは、先程の標ぼう科目と合わせて、かかりつけ医を見つける1つの指標となりますね。次の再診時、「○○認定医之証」が掲げてないか待合室で確認して下さい。

### ●日本の医師免許には更新制度がない！●

診察や診断、そして治療は医師免許が無いと出来ません。少し厳密なお話になりますが、薬局で「ちょっと風邪みたいなんですけど、良い薬ありませんか？」とあなたが聞けば薬剤師さんは何種類かのお薬を選び説明してくれますが、「熱があって咳がでるんです」という問いに薬剤師さんが「風邪ですね」と診断したら、これは医師法違反となります。米国や英国などは医師免許の更新制度があるのですが、日本の医師免許には更新がありません。確かに、更新の判断基準は難しいところでしょうし、様々な理由があるのかもしれませんが患者サイドとしてはちょっと心配ですね。医師も老眼になりますし、細かな事にも歳と共に面倒になったりします。手先が震えるなんて外科医先生はおられないと思いますが。。

### ●患者側のモラルの低下も問題に●

最近、総合病院などに行くと総合受付の事務方の方が「○○様～」と読んでくれます。病院もサービス業という考え方のようですが、だからと云って看護師さんにまで、ましてやドクターにまで「○○様」と呼ばれると、ちょっと近づきにくだすね。やはり医療従事者の方からは「○○さん～、お待たせしました。どうぞ～」って呼んでもらえると「先生、実はね～」となりやすいと思うのですが。反対に「○○様」と呼ばれる事で「私は客だ!」という認識が勝って、医療現場に過剰なサービスを要求しているケースや患者側のモラルの低下も見られます。「コンビニ受診」という聞きなれない言葉もその一例でしょうか。夜間や休日など、一般の診療時間外に

軽症の患者さんが救急外来を受診することで、救急医療体制の崩壊に繋がるとして非常に問題視されています。また、救急車を安易に呼び、タクシー代わりに利用したりするケースなどもあり、他の救急搬送が困難になるという事態も起こっています。そして、医療従事者や医療機関に対して理不尽な要求や暴言などを繰り返す「モンスターバイシエント」。直訳すれば「患者怪獣」。妖怪ウオッチャーじゃないですが、「患者怪獣ウルサザウルス」とでも命名しましょうか。具体的には「何時まで待たせる!」と怒鳴る何かを壊す。「訴えてやる」「○○に知合いがいるから特別扱いしろ」やセクシャルハラスメントとなる言動も。患者側としては体調が悪い時に不安が募ってドクターや看護師さんへ頼る思いの裏返しだと思のですが、このような言動が医療従事者を休職に追い込む事態も発生しています。名医訪ねて往復2時間、そして待つこと1時間、やっと診察と思えばたったの5分。では確かに不満は残るかもしれませんが、「患者怪獣ウルサザウルス」にならない様、注意したいところです。

### ●「立ち去り型サボタージュ」って？●

勤務医の間では「立ち去り型サボタージュ」と呼ばれる動きがあります。1ページで紹介したように、医療事故が警察の捜査の対象とされ、マスメディアの報道もあり医療不信が増大、医療安全への過度な要求が増えました。さらには日本では刑事事件とされる事もあります。他の先進諸国では医師個人を刑法で裁くことはなかなか見られません。これは萎縮医療を防ぐためですが「グローバルな医療世界に日本の国内司法を持ち込もうとすることが、医療問題の障害になっている」という声もあります。その結果、医師が警察やマスコミなどを恐れ、高度な手術が必要な患者の受け入れを拒んだり、リスクの大きい病院の勤務医を辞め負担の少ない病院へ移ったり、開業医になったりするような動きも見られます。これを、「立ち去り型サボタージュ」と呼ぶようです。勿論、前向きな気持ちで職場を変える、あるいは開業される先生方がほとんどでしょうが先程の「モンスターバイシエント」も「立ち去り型サボタージュ」の要因となっています。

### \*\*\*\*\* 医療を「賢く」受けるために \*\*\*\*\*

私達にとって医療業界、特に医師は非常に近い存在だと云えますが、実際にどんな労働環境でどんな問題が起こっているのかは、マスメディアの世界から聞かせるだけで、実際に日々お会いしている先生方と結び付いていないのが現状でしょう。しかし実際に医療の現場は無数の糸で繋がり、高齢化社会をはじめとして、前述でご紹介したような問題が山積みです。また医療行政も次々と新たな制度や改定を繰り返す、その対応で現場の医師や医療事務の方々も益々煩雑になっていると聞きます。私達も今一度、医療を受ける者として医療業界により一層関心を持ち自分がかかるとして医療と、そして医療従事者の皆さんと関わっていけば良いのかを考えてみてはいかがでしょうか。医師も看護師も薬剤師も、反対に患者となる場合もある1人の同じ人間です。皆さんがより有益な医療を賢く受けるためには、お互いの歩み寄りや信頼関係が何よりも大切なのではないでしょうか。

### \*\*\*\*\*

協会は多くの法人賛助会員様の年会費によって会務を行っており、本紙面を通じまして日頃お世話になっております法人様を順次ご紹介しております。関係各位にコメントをお願いしておりますので、ぜひ患者さんへの一言をお願い致します。

## カルピス株式会社

平成19年(2007年)ご入会

- ◆ 所在地 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 2-4-1
- ◆ 電話 03-6412-3255
- ◆ 業種 飲料・食品製造販売
- ◆ 関連商品

「健彩生活「アレルケア」シリーズ」

- ◆ 会員の皆様へのひと言  
弊社は長年の乳酸菌研究の中から選び抜いた「L-92乳酸菌」を「健彩生活「アレルケア」シリーズ」に活用しています。カラダの中から強くなりたい方の健康で快適な毎日をサポートします。お子様用から大人用までご用意しており、カルピス社ならではの安心してご利用いただけるサプリメントです。

## 株式会社ユーホーニイタカ

平成19年(2007年)ご入会

- ◆ 所在地 〒136-0075 東京都江東区新砂 1-6-35  
イーストスクエア東京707
- ◆ 電話 03-5633-2520
- ◆ 業種 樹脂ポリッシュ・洗剤など
- ◆ 関連商品 「薬用ピュアソープピュアボディソープ」

- ◆ 会員の皆様へのひと言  
皆様の日々のご苦勞、ご心痛を察するに余りありますが、病気にめげずお過ごし下さいます事を願っております。「薬用ピュアソープピュアボディソープ」はオリーブ油とベニバナ油等で作った無香料・無着色・防腐剤・殺菌剤・合成界面活性剤一切不使用の低刺激洗浄料です。今後、メーカーとして少しでも良い商品を作り貢献出来ま様、精進致します。  
(敬称略)



1 い 1 い 1 ひ 2 ふ 2014年 「皮膚の日」催事

11月12日は「いいひふ「皮膚の日」です。日本臨床皮膚科医会が1987年に制定し今年で27年を迎えます。皮膚についての正しい知識の普及と皮膚科専門医療に対する啓蒙活動を目的とし、各地で講演会やイベントが開催されます。アトピーの演題は少ないですがご参加下さい。

※[左の最下部(埼玉県)の続きです]

**埼玉県**

① 「加齢による皮膚トラブルとその予防  
～乾皮症から皮膚癌まで～」  
埼玉大総合医療センター 伊崎 誠一先生  
「スキンケアと治療の実際～ニキビからシフ、シミまで～」  
千春皮膚科クリニック 遠達 千春先生  
●スキンケア製品展示紹介  
●お肌のトラブル相談  
② 埼玉県皮膚科医会 皮膚の日イベント事務局  
TEL 048-824-2611

**千葉県**

日時：11月2日(日) 13:00～15:00  
会場：三井ガーデンホテル千葉 4F  
●講演会  
「その治らない肌の傷(潰瘍、壊疽)、  
大丈夫ですか？」  
東京都立墨東病院 沢田 泰之先生  
「足の健康のために、ウオノメ、タコ、巻き爪に  
ついて知ろう！」 名戸ヶ谷病院 安達 智江先生  
③ ふなばし皮膚科クリニック  
TEL 047-407-3772

**神奈川県**

日時：11月3日(月・祝) 13:00～15:30  
会場：横浜情報文化センター情報ホール  
横浜市中区日本大通り1番地(新館6階)  
「皮膚の日」イベント  
●講演「こどものスキンケア」  
神奈川県立こども医療センター 馬場 直子先生  
●Q&Aコーナー  
数名の皮膚科医でパネルディスカッション風に行う  
●お肌のトラブル相談コーナー  
ブースで数名の皮膚科医が来場者の質問を直接受ける  
●無料肌年齢測定コーナー  
●スキンケア製品展示・紹介・配布コーナー  
●展示コーナー  
●スキンケア製品の展示・サンプリング  
④ こばやし皮膚科クリニック  
TEL 0466-28-4112

**山梨県**

日時：11月9日(日) 10:00～15:00  
会場：山交百貨店(甲府駅前)  
●顔と手足の皮膚がん無料検診  
⑤ 山梨県立中央病院皮膚科  
TEL 055-253-7111

**静岡県**

日時：11月15日(土)  
会場：静岡グランドホテル中島屋  
●皮膚科無料相談  
●市民公開講座 特別講演  
●「専門医と語る、誰にも聞けない抜け毛の悩み」  
浜松医科大学准教授 伊藤 泰介先生

**富山県**

日時：11月9日(日) 14:00～15:30  
会場：富山県立中央病院5階ホール  
●講演会「水虫のはなし」  
射水市民病院 渋谷 高子先生  
「知っておこう、帯状疱疹」  
厚生連高岡病院 村田 久仁男先生  
⑥ 谷口医院  
TEL 0766-22-1220

**石川県**

日時：11月16日(日) 14:00～16:00  
会場：ホテル金沢 2F ダイヤモンド  
金沢市堀川新町1-1  
●講演 かゆみを伴う皮膚疾患～皮膚欠乏症皮膚炎～  
痛みを伴う皮膚疾患～帯状疱疹を中心に～  
●皮膚のことなんでも無料相談会  
⑦ 金沢医科大学皮膚科学講座医局  
TEL 076-218-8141

**福井県**

日時：11月16日(日) 14:00～16:00  
会場：ラフリーパートナーエルバ(2F)エルバホール  
●講演会「高齢者の皮膚障害」  
福井県立病院 光戸 勇先生  
●無料皮膚病相談  
⑧ 石黒皮膚科クリニック  
TEL 0776-51-6700

**岐阜県**

日時：11月9日(日) 13:30～15:00  
会場：岐阜大学サテライトキャンパス  
岐阜スカイウイング37 東棟4階  
岐阜市吉良町6-31 (JR岐阜駅前北口)  
TEL: 058-212-0393  
●「皮膚の日」市民公開講座  
「あざのレーザー治療」  
岐阜大学医学部付属病院 佐藤 三佳先生  
「あなたも注意!! こんなに怖い皮膚がん」  
大垣市民病院 高木 肇先生  
⑨ 岐阜大学皮膚科 TEL 058-230-6397  
または6394

**札幌市**

日時：11月15日(土) 14:00～17:00  
会場：札幌プリンスホテル 国際館バミール  
●市民公開講座「尋常性皮膚病」  
尋常性乾癬 北海道大学 藤田 靖幸先生  
尋常性白斑 札幌医科大学 瀬川 靖之先生  
尋常性座瘡 やまはな皮膚科クリニック  
萩原 千也先生  
尋常性疣贅 恵み野皮膚科クリニック  
小玉 和郎先生  
●市民無料相談会  
⑩ 廣仁会札幌皮膚科クリニック(根本・川村)  
TEL 011-221-8807

**旭川市**

日時：11月16日(日) 14:00～  
会場：大雪クリスタルホール  
●市民公開講座  
1. 「かゆい! 皮膚病」  
～正しく知ろうスキンケア～  
旭川医科大学 飯沼 晋先生  
2. 「あなたの髪、健康ですか?」  
～知っておきたい頭皮の病気～  
旭川医科大学 金田 和宏先生  
⑪ 旭川医科大学皮膚科学講座(小松)  
TEL 0166-68-2523

**秋田県**

乾癬の会  
日時：11月9日(日)  
会場：旭川市障害者福祉センター おびった  
●講演  
「乾癬を透かしてみれば」  
旭川医科大学 本間 大先生  
⑫ 小林皮膚科クリニック  
TEL 011-738-5511

**函館市**

日時：11月15日(土)  
会場：ホテル法華クラブ函館  
●市民公開講座  
「危険な太陽紫外線」  
弘前大学 澤村 大輔先生  
⑬ 日吉皮膚科クリニック(横田)  
TEL 0138-30-3003

**釧路市**

日時：11月21日(木)  
会場：釧路市生涯学習センターまなぼと  
●市民公開講座  
「高齢者で注意が必要な皮膚疾患～疥癬、  
ダニ、シラミを中心に～」  
赤穂市民病院 和田 康夫先生  
⑭ 功仁会釧路皮膚科クリニック(足立)  
TEL 0154-37-6120

**青森県**

日時：11月9日(日) 13:00～15:00  
会場：アピオあおもり  
青森市中央3-17-1  
TEL: 017-732-1010  
●市民公開講座  
1. 「子供の皮膚病あれこれ」  
青森県立中央病院 池永 五月先生  
2. 「肌が弱いということ」  
三上皮膚科診療院 三上 英樹先生  
⑮ 長島皮膚科クリニック  
TEL 017-776-1112

**岩手県**

日時：11月30日(日) 13:00～16:00  
会場：アイーナ(いわて県情報交流センター)  
8階 803 盛岡市盛岡駅西通1-7-1  
●講演会「こどもの皮膚のトラブル」  
1. 「とびひ」  
佐々木皮膚科 佐々木 泰先生  
2. 「水いぼ」  
星が丘瀬川皮膚科クリニック 瀬川 郁雄先生  
3. 「頭しらみ」  
中村・北條クリニック 中村 浩昭先生  
4. 「アトピー性皮膚炎」  
岩手県立中央病院 森 康記先生  
⑯ 中村・北條クリニック  
TEL 019-636-3555

**宮城県**

日時：11月16日(日) 12:00～17:00  
会場：仙台商工会議所 7階 大会議室  
TEL: 022-265-8124  
●講演会「ニキビの漢方治療」  
貝が森皮膚科 岡井 隆英先生  
●スキンケア製品の案内  
⑰ 仙台医療センター 皮膚科  
TEL 022-293-1111

**秋田県**

日時：11月11日(火) 13:30～16:30  
会場：中央シルバーエリア  
●講演「高齢者の皮膚疾患～早期発見と予防に  
役立つ～」秋田大学 梅林 秀弘先生  
⑱ 秋田長寿社会振興財団 研修・相談課  
介護講座担当  
〒010-1412 秋田市御所野下堤5丁目1-1  
TEL 018-829-2777

**山形県**

日時：11月16日(日) 10:00～12:00  
会場：山形国際交流プラザ・山形ビッグウイング  
●皮膚の健康セミナー  
1. 「ちょっと知りたい、皮膚がんの話。  
こんな皮膚の症状ありませんか?」  
山形大学 紺野 隆之先生  
2. 「その皮膚の症状、乾癬かも?」  
知ってほしい病気のこと、患者会のこと」  
つばさ皮膚科 橋本 秀樹先生  
⑲ つばさ皮膚科 TEL 0237-43-1241

**福島県**

日時：11月16日(日) 14:00～  
会場：福島テレサ  
●講演会「演題未定」  
福島県立医科大学 山本 教授  
●11月12日(水)福島県民新聞、  
民友新聞に記事掲載予定  
⑳ 伊藤皮膚科クリニック  
TEL 024-551-1121

**栃木県**

日時：11月16日(日) 13:00～15:30  
会場：宇都宮市民プラザ  
●講演会  
「ニキビ治療最新情報  
～皮膚科医からのアドバイス～」  
山王メディカルクリニック 宮地 百子先生  
●皮膚の健康無料相談会  
㉑ 久保川皮膚科医院  
TEL 028-627-0505

**群馬県**

日時：11月16日(日) 14:00～15:00  
会場：群馬ロイヤルホテル  
●皮膚の日講演会  
「褥瘡の早期発見と予防、チーム医療について」  
桐生厚生病院皮膚科 岡田 克之先生  
㉒ のぐち皮膚科クリニック  
TEL 027-370-1211

**新潟県**

日時：11月15日(土)  
会場：新潟グランドホテル(新潟市)  
●講演会「乾癬外用療法 つら!オモテ!」  
札幌皮膚科クリニック 安部 正敬先生

**長野県**

日時：11月16日(日) 14:00～15:00  
会場：松本市 あがたの森文化会館 2-8  
●市民公開講座「皮膚のがん」  
信州大学 宇原 久先生  
㉓ 信州大学医学部付属病院 臨床試験センター  
TEL 0263-37-3389

**東京都**

日時：11月9日(日) 10:00～14:30  
会場：慶徳義塾大学附属病院 2号館  
臨床講座兼大会議室  
●足裏ホクロ無料相談会  
(ダーモスコピーによる足置母斑の検診)  
㉔ 東京都皮膚科医会事務局  
TEL 03-5332-1112

**埼玉県**

日時：11月9日(日) 13:00～16:00  
会場：さいたま赤十字病院 講堂(5階)  
●皮膚の日講演会  
「いつまでも健やかな皮膚を保つ」  
※[右の最上部(埼玉県)の続きです]



**愛知県**  
 日時：11月9日(日) 10:00～17:00  
 会場：愛知県医師会館 名古屋市中区栄4-14-28  
 TEL：052-241-6498  
 ●講演会「帯状疱疹の謎～治療と予防の最新情報～」愛知医科大学 渡辺 大輔先生  
 ●皮膚疾患の無料健康相談  
 ●肌診断とスキンケアアドバイス  
 関 タナカ皮膚科  
 TEL 052-581-5511

**三重県**  
 日時：11月16日(日) 14:00～16:00  
 会場：津アストホール アストプラザ4階  
 ●講演会「加齢？病気？シルバー世代の皮膚トラブル」三重大学 尾本 雄一先生  
 「こわい？こわくない？ホクロのがん(メラノーマ)」三重大学 中井 康雄先生  
 関 ととき皮膚科クリニック  
 TEL059-355-1112

**滋賀県**  
 日時：11月9日(日) 14:00開演(13:30開場)  
 会場：南草津フェリエ 市民交流プラザ 中会議室 (JR 琵琶湖線南草津駅 南草津フェリエ5階)  
 ●皮膚の日フォーラム講演  
 「よくある皮膚疾患～尋麻疹・食物アレルギーに関して～」京都府立医大 森田 浩司先生  
 関 みずき皮膚科クリニック  
 TEL 077-511-2305

**京都府**  
 日時：11月9日(日) 13:30～15:40  
 会場：メルパルク京都5階 会議室A (JR京都駅前)  
 ●開会挨拶 京都皮膚科医会 会長 松村 康洋先生  
 ●講演会  
 「がゆみとスキンケア ～小児から大人まで～」京都医療センター 十一 英子先生  
 「あなたの爪は大丈夫？～爪にまつわる色々なお話」西仁会武田総合病院 松井 美朝先生  
 ●皮膚の病気相談タイム(会場にて) 14:40～15:40  
 ●皮膚科専門医による無料相談コーナー  
 関 京都皮膚科医会  
 TEL 075-354-6105

**大阪府**  
 日時：11月16日(日) 13:30～16:00  
 会場：朝日新聞社 オールホール 大阪市北区梅田3-4-5  
 TEL：06-6346-8351  
 ●講演会  
 「キズ・床ずれの治し方～傷は、乾かすべきなのか、湿らせるべきなのか？最適な治療法とは？」皮膚科シュッソー 河合 修三先生  
 「アトピー性皮膚炎の外用療法～季節と皮膚症状から考えるスキンケア指導と外用療法の選択～」大阪大学大学院 片山 一朗先生  
 ●皮膚病相談  
 関 大阪皮膚科医会事務局(近畿大学皮膚科医局内)  
 TEL 0723-66-0221

**兵庫県**  
 日時：11月8日(土) 15:00～  
 会場：神戸国際会館  
 ●講演会  
 「アトピー性皮膚炎におけるスキンケア」神戸市立医療センター中央市民病院 長野 徹先生  
 「ニキビって病気？～ニキビ跡を残さないように、どうすればいいの？」明和病院 黒川 一郎先生  
 関 平本皮膚科  
 TEL 06-6495-2668

**奈良県**  
 日時：11月22日(土) 15:00～  
 会場：学園前ホール(奈良市西部会館市民ホール) 奈良市学園南3丁目1番5号西部会館3F  
 ●「ひふの日」記念講演会  
 「アトピー性皮膚炎攻め論」ほのか皮膚科 林本 久美子先生  
 「いい皮膚を保つための豆知識」皮膚科大野クリニック 大野 浩彦先生  
 ●皮膚科なんでも無料相談会  
 皮膚科専門医10名が対応  
 関 山脇皮膚科  
 TEL 0742-22-2244

**和歌山県**  
 一皮膚ガン死亡ゼロを目指して一  
 田辺市会場  
 日時：11月22日(土) 13:00～16:00  
 会場：ガーデンホテルパナヨ 松竹の間 田辺市文理市2-36-40  
 TEL：0739-26-0874  
 ●特別講演  
 「皮膚がんについて」  
 ※[右の最上段(和歌山県2)に続きます]

※[左の最下段(和歌山県)の続きです]  
 海軍医療センター 貴志 知生先生  
 司会 徳病院 井上千津子先生  
 ●皮膚ガン無料相談  
 お問い合わせ専用窓口 TEL 060-2448-2686

**和歌山県**  
 日時：11月29日(土) 13:00～16:00  
 会場：和歌山ビッグ愛 大ホール 和歌山市手平2-1-2  
 TEL：073-435-5200  
 ●特別講演  
 「和歌山の皮膚ガンゼロをめざして～“見えるガン”皮膚ガンは、自分で早期発見できます！」公立即発病院 米井 秀先生  
 司会 廣井皮膚泌尿器科 廣井 彰久先生  
 ●皮膚ガン無料相談  
 お問い合わせ専用窓口 TEL 080-2448-2686  
 関 泉谷皮膚科 TEL 0736-62-2852

**鳥取県**  
 日時：11月20日(木) 14:00～15:00  
 会場：米子市文化ホール  
 ●鳥取県西部医師会一般公開健康講座  
 地区医師会と共催  
 ●公開講座  
 「床ずれの予防と治療」木村皮膚科クリニック 木村 秀一朗先生  
 ●新聞に啓発記事掲載  
 関 木村皮膚科クリニック  
 TEL 0859-33-9182

**島根県**  
 日時：11月12日(水)  
 新聞紙上「皮膚の日」にちなんだ内容で新聞地方版に広告掲載  
 関 医療法人大畑医院  
 TEL 0856-22-0506

**岡山県**  
 日時：11月16日(日)  
 会場：岡山コンベンションセンター 第23回「皮膚の日」の集い  
 ●講演 「健やかな肌を保つスキンケア～各年代で起こりやすい肌トラブルとその対策～」東北大学 菊池 勇子先生  
 ●皮膚無料相談(専門医による)  
 ●山陽新聞・山陽新聞レディアに広告と啓発記事  
 関 佐藤皮膚科  
 TEL 086-420-2066

**広島県**  
 日時：11月16日(日) 9:00～12:00  
 会場：広島市健康づくりセンター 皮膚科無料相談会  
 ●皮膚の健康教室  
 テーマ：スキンケアについて 三原皮膚科アレルギー科 三原 祥嗣先生  
 なかの皮膚科泌尿器科 安田 貴恵先生  
 関 にいみ皮膚科アレルギー科  
 TEL 082-830-0006

**山口県**  
 日時：11月16日(日) 10:00～15:00  
 会場：パタフライアリーナ(柳井市)  
 ●やまぐち元気フェアにて「皮膚病相談」を実施  
 関 やすの皮膚科  
 TEL 083-974-1700

**徳島県**  
 日時：11月23日(日) 14:00～16:00  
 会場：ふれあい健康館  
 ●未定  
 関 戸田皮膚科医院  
 088-657-6111

**香川県**  
 日時：11月16日(日) 14:00～16:00  
 会場：丸亀町レッツホール 高松市丸亀町若番街東館4F  
 ●皮膚がん無料相談  
 皮膚科専門医によるホクロなどの皮膚症状の診察、病院・医師の紹介  
 関 森岡皮膚科医院  
 TEL 087-834-1011

**愛媛県**  
 日時：11月16日(日)  
 会場：松山三越  
 ●講演会「美しい皮膚のために～光の中で～」愛媛大学 佐山 浩二教授  
 ●ほくろ相談会  
 日時：11月16日(日)  
 会場：新居浜市医師会館  
 ●ほくろ相談会  
 関 愛媛県医師会(事務部長 中野)  
 TEL 089-943-7582

**高知県**  
 日時：11月15日(土) 14:00～16:30  
 会場：総合あんしんセンター 3F 大会議室 高知市丸ノ内1-7-45  
 TEL:088-824-8366  
 ●講演  
 1.「じんましん～原因は何ですか?」広島大学 平野 隆明先生  
 2.「痛みをともなう皮膚疾患～帯状疱疹ってどんな病気?～」奈良県立医科大学 渡田 秀夫先生  
 ●皮膚病(形成外科、美容皮膚科を含む)無料相談  
 ●お肌の診断(資生堂協賛) 15:30～16:30  
 関 森名皮膚科 TEL 088-820-5830

**福岡県**  
 日時：11月16日(日) 13:00～15:00  
 会場：天神NK 会議室  
 ●テーマ：乾燥(講演3題の予定)  
 関 黒田クリニック  
 TEL 093-611-5225

**佐賀県**  
 日時：11月30日(日) 14:00～15:00  
 会場：佐賀市文化会館3階大会議室  
 ●市民公開講座  
 「これって何?みんなが気になる皮膚症状」その1:くすりの副作用  
 その2:皮膚がん  
 講師:佐賀大学 永瀬 浩太郎先生  
 司会:ことう整形外科皮膚科クリニック 後藤 由美子先生  
 関 凌皮膚科医院 TEL 0952-23-3226

**長崎県**  
 日時：11月15日(土) 15:00～17:00  
 会場：長崎市医師会館7F 講堂 長崎市栄町2-22  
 ●市民公開講座  
 1.公開講座「床ずれと糖尿病による皮膚潰瘍」長崎大学 宇谷 厚志先生(講演50分 質疑応答10分)  
 2.展示 石けん・保湿剤・入浴剤など  
 3.実演 ハンドマッサージ(先着10名)  
 関 まつなが皮膚科 TEL 095-885-7711

**熊本県**  
 日時：11月16日(日) 9:45～12:00  
 会場：くまもと県民交流館 バレアホール  
 ●市民公開講座  
 「アトピー性皮膚炎の治療～塗り薬の正しい使い方～」九州大学大学院 中原 剛士先生(10:15～11:30 質疑応答15分を含む)  
 関 くまもと森都総合病院皮膚科  
 TEL 096-364-3450

**大分県**  
 日時：11月3日(土) 10:00～16:00  
 会場：コンパルホール(大分市)  
 ●健康相談  
 「子育て博覧会2014」における行事の一環として、乳幼児・学童の皮膚の健康相談(耳鼻科、小児科、眼科、歯科、婦人科も参加)  
 関 皮膚科市川医院 TEL 097-533-0908

**大分県**  
 日時：12月7日(日) 13:00～16:00  
 会場：ホルトホール(大分市)  
 ●第14回「皮膚の日」市民講演会  
 「もっと知ろう!～シミについて～」いしかわ皮膚科・形成外科 石川 正先生  
 「巻き爪の治療」しげや皮膚科・形成外科 益谷 博実先生  
 関 大分大学医学部皮膚科  
 TEL 097-586-5882

**鹿児島県**  
 日時：11月16日(日) 12:30～13:30  
 会場：JR九州ホテル(鹿児島中央駅)  
 ●公開講座  
 市民公開講座(鹿児島県患者会との共催)  
 ●[演題未定]  
 大分県立病院 佐藤 俊宏先生  
 関 ひふ科形成外科クリニック  
 TEL 0995-67-2412

**沖縄県**  
 日時：11月30日(日) 13:00～15:00  
 会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂 那覇市おもろまち3-1-1  
 ●講演会  
 1.「美肌のために今できること」美子スキンケアクリニック 小原 美子先生  
 2.「皮膚科にできること」小林皮膚科医院 渡辺 雅子先生  
 関 美ら浜皮膚科クリニック  
 TEL 098-957-1112

※茨城県・島根県・長崎県・宮崎県など一部地域では10月中旬に催事が終わっていますのでお奨めました。



## \*\*\* アレルギー疾患治療実態調査 \*\*\*

この調査は厚労省と日本アレルギー学会協力のもと、国立成育医療研究センターが医師・患者双方を対象に行ったアレルギー疾患対策の大規模な全国調査です。

### 【専門医先生を受診していますか？】

アトピー性皮膚炎の場合などは、やはり「ついて標ぼう」で診察出来る病症ではないと思います。アトピー治療の第一選択薬ステロイド外用薬は、軟膏とクリーム、頭皮用など約250種類。勿論、病院・医院に同数はありませんが、ストロングストからウィークまで薬効も5段階ある中から症状部位に適したお薬処方、やはり皮膚科学会・アレルギー学会専門医の先生にお願いしたい所です。ところが、この調査報告で「アレルギー科」を標ぼうしている医療機関でアレルギー学会専門医資格（アレルギー学会専門医）を持つ医師が調査全体数1052名中318名（30.2%）、同資格を持たない医師が724名（68.8%）と判明しました。

（皮膚科学会専門医がアレルギー科を標榜される事はあります。）

### 【疾患別に診療ガイドラインがあります】

患者さんから「どの皮膚科へ行っても同じ診察と同じ薬」と良く聞きます。様々なアレルギーには、疾患別に診療ガイドラインがあります。これは適切な診断と治療を補助することを目的とし最新の情報が専門家によってまとめられたものです。先程の患者さんは、ガイドラインに則した診断・治療の病院・医院を受診された事になりますね。ただガイドラインはあくまで基本です。100人100色のアトピー性皮膚炎の場合、先生方の熱意と努力が無ければ、勿論患者さんの「治そう」という前向きな気持ちが無ければ役立ちません。今回ガイドラインに則さない治療や指導が行われていた事も、患者さん8240例の調査で判明しました。

#### ● アトピー性皮膚炎の場合 ● （アトピー性皮膚炎診療ガイドライン）

- ① ガイドラインではステロイド外用薬が第一選択薬とされ、症状に合わせて適切なランクと使用量を具体的に示す事とされていますが、この調査では患者さんの65%（成人59%・小児71%）が使いたくない。或いは出来れば使いたくないと回答しています。
- ② 外用薬は適切な量を使用することが重要ですが薄くのぼすなど逸脱した使用があり、適切な使用量となっていないケースが判明。
- ③ ガイドラインは石鹸使用を推奨していませんが特に使用を禁止していません。きれい過ぎ好き日本人は、シャンプーや石鹸を使い過ぎの傾向がありますが、外用薬は油分も多く含むため症状部位はやはり石鹸を使わないと落ちない事も。勿論、洗浄力が強いものやゴシゴシ洗いは論外です。

#### ● アレルギー性鼻炎の場合 ● （アレルギー診療ガイドライン）

- ① ガイドラインでは、薬物療法だけで無くアレルギーとなる原因や抗原の除去や回避が推奨されていますが、患者さんの9%（成人6%・小児12%）しか医師からの指導を受けていないようです。
- ② 仕事・勉強・家事などの日常生活に支障が無い方は、全体の32%（成人24%・小児40%）に過ぎず、大多数がガイドライン目標の「日常生活に支障が無いレベル」に達していません。
- ③ ガイドラインは標準的治療の補助的なものですが、約9%の方が甜茶やヨーグルトなどの食事療法を医師から指導され、その内8%の方が薬の処方もない結果です。妊婦さんや乳幼児で軽症などは考えられますが。

#### ● 喘息（小児・成人）の場合 ● （喘息予防・管理ガイドライン/小児気管支喘息治療・管理ガイドライン）

- ① ガイドラインでは、発作時に使用する発作治療薬（リリーバー）と、発作がない時に毎日定期的に使う予防薬（コントローラー・長期管理薬）の2種類を明確に分け、月1回以上の発作がある場合には、この予防薬を使用する事を推奨。今回の調査では47%（成人55%・小児38%）で発作が月1回以上あるがその内の17%（成人15%・小児21%）の方が発作治療薬以外、何も使用していない事が判明。また週に1回以上の発作がある方に絞っても15%（成人13%）・小児19%の方が発作治療薬しか使用していません。
- ② 同じく発作があった場合でも47%（成人55%・小児38%）の内26%（成人25%・小児28%）の方が全く発作治療薬を使用していない結果に。

## ハイ！ アトピーつき合い40年の友実です

フリーアナウンサー 関根 友実 連載第16回



首の根元がとても痒い今日この頃です。しかも、普段はあまり痒くはない場所なのです。同じ首でも私の場合はアトピーが出やすい場所は決まっています、首の両側部、リンパが通っているあたりがいつもブツブツして痒いのですが、今回は根元、デコルテ周りというよりはその脇のあたりがひと月くらい痒いのです。塗り薬で抑えても、なかなか

治りません。難敵相手に、しばし作戦を練っておりました。思い返せば、似たような難敵を抱えていた時期がありました。これまた首周りの湿疹なのですが、私の場合、普段は首の後ろには絶対に出ないのですが、痒みのあるブツブツした発疹が首の後ろに広がって、それが背中にも広がって行くことがありました。子供のころは背中もアトピーが酷かったのですが、思春期くらいに治まって以来、ほとんど出ることが無くなっていった箇所です。これは変だと思い、病院へ行きました。ベテランの女医さんでしたが、一目見るなり、「これは何か原因のある発疹です」と言うのです。私は「季節の変わり目」とか「体質的なもので、中から出てくる」とか、抽象的にぼんやりとした理由を思い描いておりました。でも、ドクターははっきりと、「外部に何らかの刺激があって、それに反応して出ている発疹です。そして、それはおそらく、日常的に身に着けているものです。」日常的に身に着けている…そして、背中…。「そうですね。でも、それは目に見えるものとは限りません。ハウスダストもちろんそうですが、位置的に首の後ろから背中にかけてですから、恐らくシャンプーか整髪剤ですね。使っているシャンプーに気をつけてみてください」シャンプーは物心ついたころからスーパーで安く売られているとあるメーカーのシャンプーを使い続けており、同じような発疹は出たことがありません。半信半疑でシャンプーを、基礎化粧品と同じ系列の超敏感肌用のシャンプーに替えてみました。すると、少しずつ発疹が治まっていき、数日後には元通りの通常肌になりました。使い慣れたシャンプーだったのに、ある日突然反応が起きることがあるものなのだなあと体験的に学んだのでした。その経験を踏まえ、作戦を練っていたところ、心当たりがありました。首の根元と言えば、勤務先で身に着けている白衣の襟元がクリーニングから戻ってきたときにばりばりに糊付けされていることを思い出しました。原因はそれかもしれないと考えて、今週より自宅に持ち帰り、家で洗濯することにしました。現在、仮説を検証中です。また、折に触れてご報告します。皆さんも、身近に触れているものがある日突然…ということがありますので、くれぐれもご注意くださいね。……………（次号につづく）

#### ● 食物アレルギーの場合 ● （食物アレルギー診療ガイドライン）

- ① ガイドラインでは、アナフィラキシー補助治療剤のエピベン（アドレナリン自己注射薬）を推奨していますが、49%の医師しかアナフィラキシー経験者への処方をしていませんでした。
- ② また食物アレルギーは特定の食物摂取時に症状が誘発される事とアレルギー検査（特異的IgE抗体検査）で確認し診断するとしておりIgG抗体陽性は、食物アレルギーの診断としていませんが、患者さんの6%がIgG抗体陽性反応を受け、その食物除去を行っていました。やはり医師も保護者もアナフィラキシーへの不安が大きい結果でしょうか。
- ③ 卵アレルギーの場合、鶏肉や魚卵の除去は記載されていませんが、6%の医師が鶏肉・魚卵等疑わしい食品を禁止。少しでも疑わしい食物排除の気持ちは分かりますが、厳格な指導や排除は成長への影響も懸念されます。

各診療ガイドラインは、専門医によって確認された新たな指針や治療方法などが数年単位で更新され掲載されます。患者さんごとに異なる症状、体力や体質などによっても治療やお薬の処方方は異なり、高度で専門的な診断と治療、処方が必要です。患者サイドとしては、専門医制度の充実が計られ、高度な知識ある各科専門医が増える事を切に願うところです。



## ドクターインタビュー

## 檜澤 孝之(ひざわ たかゆき)先生

ひざわ皮膚科クリニック院長

大阪府茨木市、追手門学院大学の近くに2006年「ひざわ皮膚科クリニック」を開院。主に小児皮膚科、アレルギー皮膚科の診療を行ってられる。檜澤先生にお話を伺いました。

—先生のご経歴を拝見しますと、東京大学工学部をご卒業とあり、とても珍しく興味深いのですが…。その後、医師を目指されたきっかけなどございますか？

よく聞かれることですが納得のいく答えはないんですよ。父も兄も医者だったのですが、私は建築などに興味があって工学部に進もうかと。それから工学部を卒業して大手エンジニアリング会社に就職して3年働きました。年をとって考えが変わって来たんでしょね。物に取り組みよりも、人と関わるほうが面白いなと思うようになって。家族に医者がいっていいことあると思いましたが、それから何科の医者と考えた時に、皆さんも聞かれたことがあると思うんですが、「皮膚は身体と心の状態を表す」とか「皮膚を見たら、その人の生き様が分かる」なんて言葉に魅かれ、それにアレルギーっていう病態をとっても興味深く感じたのが皮膚科医を目指したきっかけでした。それから猛勉強して大阪大学医学部に入学しました。卒業後は市立池田病院(大阪市)に皮膚科医として勤務した後、わがままを云ってアメリカの総合病院「Beth Israel Medical Center」に留学させてもらいました。皮膚科を希望しなかったけど、当時のアメリカは既に今の日本と一緒に1年目は内科ローテートを経験しないと行けない。呼吸器も眼科も全部まわって、2年日以降は残念なことに皮膚科のポジションがなかった。そして医局に戻り、また日本で皮膚科医として働くことになりました。当時は、今のような後期研修制度が無い時代でしたから、皮膚科に在籍しても内科ローテートを経験していたのは、私だけでしたから結構大変な思いをして、とても有意義な毎日を送らせてもらいました。

—診察室から見た最近のアトピー患者さんの症状や治療についてお聞かせください。

アトピー性皮膚炎では正しい診断がとても大切です。アトピー以外のほかの皮膚疾患もありますから、その見極めをしっかり行い、アトピー性皮膚炎が疑われる場合は血液検査や皮膚検査をしてアトピーの有無を調べます。原因は個人により全く違うので正確にそれを見極めて対処することが最も重要となり、反応性も人それぞれなので各人にあった最適な治療法を選択します。例えば幼児から学童期では花粉、ハウスダスト、ペットなどの吸入性抗原が主な原因だったりします。成人になるにつれて生活環境やストレスの影響も多くなってきます。さらに乳児では食物が原因となることが多いので、離乳食が始まる6ヶ月ごろまでに検査をお勧めしています。原因や症状に応じた治療をすることで皮膚炎を早く治してあげるだけではなく、アレルギーマーチを予防します。また食物アレルギーのお子さんには食事指導と必要に応じて負荷試験も行っています。最近では、プロアクティブ療法(TARCの数値を主審とし、湿疹などの症状が出ていないときにも一定の間隔でステロイド外用薬を使い続ける方法)を取り入れ、その治療をきっちり行うことで良くなる患者さんが多いと感じています。ステロイド外用薬の使用について、患者さんは漠然とした不安をお持ちの方がとても多くて、まだまだステロイドに対する説明不足があると痛感しますし、皮膚科医師が今後も努力しないと行けないと感じています。当院は特に、お子さんを連れてお母さん方が多いのですが、お母さんにもきちんと説明することで納得される方は多いです。ただ実際には、プロアクティブ療法はステロイド外用薬を塗る正しい量と頻度を守ることに大変な労力が要ります。患者さんが理解出来るよう丁寧に説明して、ステロイド外用薬の塗る量と部位と回数を厳密に指示しないと行けません。痒いとこだけ酷いとこだけ塗るのではなく、体のここからここは、このお薬をきっちりこの量を塗る。顔にはこのお薬をまた違う量を塗るなどの指示を、ワンフィンガーチップユニット(1FTU)\*を参考に示しながら、再診の時1週間分の薬をどれだけ塗ったかをチェックするなどして、患者さんに実行してもらっています。

\*フィンガーチップユニット＝外用薬の適量の目安とする為の基準。おおよそ大人の人差し指の先から第一関節までチューブから薬を出した量で、手のひら2枚分にあたる症状部位に塗る。(1フィンガー・2ハンドとも云う)5グラムチューブの場合、1FTUの量は約0.5グラム。

—先生は、「皮膚心身医学」も行われていますが、「皮膚心身医学」について教えていただけますか？

「病は気から」と言うように、心と体が密接に関連していることは、昔からよく



檜澤 孝之(ひざわ たかゆき)先生のプロフィール

1963年 徳島県生まれ  
1987年 東京大学工学部卒業  
1994年 大阪大学医学部卒業 同皮膚科学教室入局  
1994年 大阪大学医学部付属病院 皮膚科勤務  
1995年 市立池田病院 皮膚科勤務  
1996年 米国NY州 Beth Israel Med.Center 内科入局  
1997年 大阪府立呼吸器アレルギー医療センター皮膚科主任  
2004年 大阪警察病院 皮膚科副院長  
2006年 ひざわ皮膚科 開院

日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医  
日本アレルギー学会認定 アレルギー専門医  
その他の所属学会  
日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会 医学博士

知られています。例えば、ストレスで胃が痛くなる経験は誰でもお持ちだと思います。原因(ストレス)から体の症状がでることを「心身症」と言い、胃潰瘍や高血圧はその代表的疾患です。皮膚科ではアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、じんましんなどが心的要素の強い疾患と言われています。皮膚の炎症は外用薬を使用する事で治まりますが、原因が取り除けていないと、また再発します。心にある不安やストレスが皮膚疾患として現れている場合もあります。当院では、ストレスについても東京大学医学部診療内科TEG研究会の「TEG II テスト」という心理テストを利用して患者さんのストレスの程度、性格傾向はどうかなど、ストレスの度合いも必要に応じて評価しています。まず、自分がストレスを受けているかどうか気づくことが大切です。ストレスがどの程度あるかは本人でも分かりにくく、ストレスに対する反応も個々で異なります。性格傾向というのもそれぞれで、それぞれに違うんだということに、皆さんあまり気づいていないんですよ。例えば、仕事が遅れたときに「あの上司こんなバカな仕事を頼みやがって」と思う人、反対に「なぜ出来ないんだろ。僕はダメな人間だ」と思う人もいます。また、日々多くの患者さんを診察していると、良く似た症状でも患者さんによって受け止め方が当然違う訳です。1人の患者さんは、診察を受けていつもどおりと感じられても、もう1人の患者さんは、相変わらず良くならないと感じる方もいます。皆が同じように考えるわけではないことに気づくことが大事なんです。この部分は、自分では分かっているつもりの方がとても多いですよ。エゴグラムという心理テストならネットから無料で診断が出来ますから、一度試されても良いかもしれません。ストレスが多いと思われる場合はそれをうまく発散出来るよう心掛け、気分が落ち込んだときは気持ちを楽にする薬を服用してもいいと思います。皮膚の治療と併用して心理的治療を行うことにより高い効果を得る患者さんもおられ、皮膚と心のつながりを日々感じています。

—最後にアトピー性皮膚炎の患者さんにメッセージをお願いします。

小さなお子さんをお持ちのお母さん方は特に、アトピー性皮膚炎を不治の病のように思っている方もおられますが、それはあまり良くないことです。先程申し上げたストレスも増えてしまいますし、症状にも影響を与えます。もちろん痒いので大変なこともあります。あまり構えないで、出来るだけ気持ちを楽にして治療していきましょう。年末年始は、皆さん日常と違う日が続くと思いますが、ゆっくりと過ごすのがお勧めです。また休みを上手く利用して普段出来ない体験をするのもいいですね。リラックスして、とにかく楽しく過ごしましょう。

—今日は貴重なお話、ありがとうございました。



## 第27回 日本製薬工業協会患者団体セミナー

### ●●●●● 参加報告 ●●●●●

去る10月22日(水)日本製薬工業協会様(製薬協)主催による「よりよい患者団体の活動に向けて」をテーマとしたセミナーが大阪第一ホテル(大阪マルビル)にて開催され参加してまいりました。製薬協様は「患者参加型医療の実現」をモットーに医療用医薬品を対象とした新薬の開発を目指し1968年に設立され、国内主要製薬メーカー様72社で構成されている団体です。今回セミナーに参加された団体は、任意団体やNPO 法人、一般社団法人などアトピー協会を含む43団体。がんやパーキンソン病、血液疾患、膠原病、細菌性髄膜炎や初めて聞く疾病など、ご支援されている団体様も様々でした。どちらの団体の方が存じませんが盲導犬をお連れの方もご参加されていました。ご講演は、認定NPO法人日本NPOセンター顧問の山岡義典先生による「患者団体に求められる組織基盤の強化」という内容で、患者団体が抱える問題点などについて詳しくご講演頂きました。アトピー協会としても、今後の活動基盤の強化や問題点など、改めて見直すよい機会となりました。また製薬協様から「第一回患者団体の意識・活動調査」という調査報告があり、患者団体調査数191団体中、全体の50.3%が任意団体、アトピー協会と同じNPO法人が29.8%となっていました。また会員数も約半数の団体が500名以下。さらには年間の活動資金が100万円以下という団体様が全体の38.7%となっていました。全国には任意の人々が熱意で運営されている団体さんが数多くあると改めて知る機会となりました。参加された多くの団体様の大きな問題点は、やはり人員不足と資金不足や資金調達方法で、質疑応答でも回答にペンを走らせる方が多数おられました。アトピー協会は、多くの法人賛助会員様のご支援を賜り運営させて頂いており、本当に有難い限りと改めて痛感した次第です。私共でも様々な問題は抱えておりますが、ご参加されていた各団体様の熱意やご苦勞を知り、今後もアトピー・アレルギーの方々にとって本当に必要な活動は何なのか、今一度真摯に向き合っていかなければいけないと感じ会場をあとにして参りました。

## ◆ 東北支援関連情報 ◆ 奇跡の“もろみ”で復活!

### ヤマセン醤油

岩手県陸前高田市で創業200年を超える醤油醸造業の(株)八木澤商店は、3・11の震災で醤油を貯蔵していた蔵、そして製造工場も全壊し津波により流失。社長様のご自宅も海に流失する未曾有の甚大被害。津波は陸前高田市内を全て飲み込み、尊い大勢の命も奪いました。さて醤油の原材料は大豆ですが、味の決め手はもろみとその熟成方法。しかし醤油づくりを200年支えてきたヤマセン醤油のもろみも流失。老舗の伝統の味を再現するため、震災支援を行いながら従業員総出でガレキをかき分け14個あった木桶のもろみを探し、気仙川の川上約700mで木桶1個を発見。ただ海水に浸かったもろみが生きていたかは分からず、そのもろみを使う事は発酵熟成が数年単位を要する醤油づくりではその歳月が無駄になってしまうあまりにも大きなリスクがありました。そこに北里大学海洋バイオテクノロジー釜石研究所でヤマセン醤油のもろみが発見される奇跡が起こりました。震災の2~3か月前、バイオ研究所の要請により研究用のもろみを提供しており、床上浸水で壊滅状態であったバイオ研究所のガレキ撤去作業中に4キロのもろみがビニール袋に収められ無傷の状態で見つかりました。そのもろみを培養し、老舗秘伝の味を再現することに成功。震災後3年7か月目、伝統的な袋しぼり本醸造醤油「奇跡の醤油(ひしお)」が完成。現在は新工場も再建し、主力商品「丸むらさき醤油」をはじめ、2013年岩手県ふるさと食品コンクール「最優秀賞」受賞商品となった味噌パンデロウ(半熟カステラ)も好評発売中。ユネスコ無形文化遺産に登録された和食に欠かす事の出来ない醤油。老舗秘伝の味を守り抜いた社長様と従業員の方々の真心が詰まった味わい深い醤油、ぜひご賞味下さい。



いわて丸むらさき (500ml) ¥378(税込)  
(1L) ¥648(税込)

**製造販売** (株)八木澤商店  
〒029-2201 岩手県陸前高田市矢作町字諏訪41  
TEL 0120-326-132 FAX 0120-443-526  
URL <http://www.yagisawa-s.co.jp/>

## 読んでみました!! この書籍!!

みなさんのご参考になれば幸いです。読めば参考になったり、反対に落ち込んだりする事もあるかもしれませんが、頑張って前向きに捉えて行きましょう。

【タイトル】「まんが医学の歴史」

【著者】茨木 保 【出版社】(株)医学書院

【定価】本体2200円 + 税

著者は、いばらぎレディースクリニックを開業されているドクターでありながら漫画家です。人気コミックDrコトー診療所の監修や「がんばれ!猫山先生」も連載中。紹介の書籍は本編319ページの大作ですが、しつかり過去の偉人達を漫画タッチに書き分けられている所は流石です。内容は勿論歴史書ですから宗教や魔術・呪術など原始的な医療?からクローン技術まで。外科の先生ならずともご存じのヴェサリウスは人体解剖に魅せられ、死体を探し求め墓場や刑場で屍を盗んで解剖による人体の構造を追究したそうです。また日本で世界初の全身麻酔手術で有名な華岡青洲は、その人体実験で実母を創業の度重なる服用で亡くし、また妻を麻酔薬の副作用で失明させてしまいました。血管結紮法を考案した外科医バル、聴診器を発見したルネ・ラエネック、消毒法を発見したゼンメルワイス。「病氣を見るな。病人を見る。」と唱えた医学の父ヒポクラテスなどなど。ドクターも懐かしい医学生の頃を思い出されては。

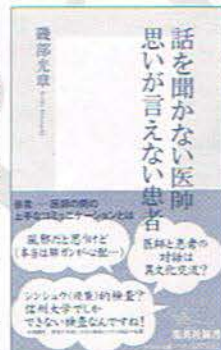


【タイトル】「話を聞かない医師 思いが言えない患者」

【著者】磯部 光章 【出版社】(株)集英社

【定価】本体740円 + 税

皆さん書籍名を見て読みたくありませんか?多分リアルに体験された、そのままだ書籍になった内容です。著者は東京医科歯科大の循環器内科教授先生です。診察前に患者さんも今日はこれを見て、先生がこう答えてくれたら次はこれと言って準備して行かれる方もおられるかもしれませんが、先生を前にするとモジモジ。大勢の待合で安心してると「○○さん~」って急に呼ばれてあたふた。先生もPCのデータとにらめっこだけでは、患者としてはやっぱり「前向いて後ろ向いてハイお薬」と感じてしまいますね。以心伝心と行けば会話も不要かもしれませんが医は仁術で忍術ではありませんので、言わなければ分からないし聞かなければ分かりません。見栄を張っても病は治りません。裸の付き合いとはいきませんが、少しは気持ちさをさらけ出せる場所であってほしいですね。帯にもウソのような勘違いが載っていますが、坐薬は座って飲むお薬?とって飲んでしまった人もいるそうですよ。



図書館の貸し出しいたします。詳しくはお問い合わせください。 TEL 06-6204-0002 FAX 06-6204-0052